

今後の予定



☆伊藤秀男さん講演会

日時：2022年10月16日（日）14時30分～16時

場所：ウインク愛知

主催：東海子どもの本ネットワーク

共催：紙芝居文化の会あいち

★詳細はこれからですが、ご予定ください。

『三月十日のやくそく』の紙芝居の絵は取材を重ねて描かれたとお聞きしています。絵本と紙芝居の絵の違いもお聞きできたらと思っています。

ニュース！『三月十日のやくそく』

2020年度五山賞受賞です！

☆まついのりこ 原画展

『ぴーちゃん ほしのこと あそぶ』

・絵本原画展

2022.1.20（木）～1.30（日）

豊田市こども図書室

おはなしのへや

・記念企画

2022.1.22（土）

松井朝子さん講演会

「母まついのりこの世界を語る」

パントマイムも演じいただけます！



☆20周年記念講座 見逃し配信

紙芝居文化の会の11月講座は、初のオンライン配信をしました。都合で見られず残念の声もあり、今回、見逃し配信を企画しました。当日参加できなかつた方、この機会にぜひ見てください。会場にいるような臨場感があったと好評でした。申し込み方法は、

紙芝居文化の会のお知らせ（1月末）、ウェブサイトで。

※落合恵子さんの講演は含まれません

・配信期間：2月中旬～3月初旬

・参加費：1000円



コラム 《ま・間・ま》

寅年が明けた。虎のイメージは、色鮮やかなオレンジと黒の縞模様が強そうでかっこいい！図書館での年始めのお話会は干支を主人公にお話を届けることが多い。そこで虎の話を探すことに。ストーリーテリングの場合は昔話から探すところが昔話に出てくる虎は、何とも格好が悪い。鹿や猿になめられる。創作絵本では、物の取り合いでバターになったり、食いしん坊の果て絨毯になったり。紙芝居でも『ねこのでしになったとら』『おじいさんととら』、どちらも虎はネコ・ひとの知恵に負けてしまう。なぜだろう？虎は古来より、アジアの文化の中で威厳の象徴として存在していた。良い格言もある。そんな威厳・強さに立ち向かう弱者の抗いが昔話という形で伝わっているのだろうか。だから、虎は強くて偉い！現実の虎は、絶滅危惧種！20世紀初頭に10万頭が今や4,000頭に。自然界に虎がいなくなるって事は、巡り巡つて命のつながりが途切れてしまうことに！かっこいい虎のゆく末を考えてみよう！



紙芝居文化の会 あいち とは

こんなことやりたい

- ・通信を発行します
- ・紙芝居講座を開催します
- ・情報交換をします



会員になるには

紙芝居文化の会にご入会下さい

詳しくは、紙芝居文化の会：

<http://www.kamishibai-ikaja.com/>

または、下記連絡先まで

紙芝居文化の会あいちの会費は不要です

愛知県内だけでなく近隣の方々もご参加下さい

連絡先

〒470-0126 日進市赤池町村東149

紙芝居文化の会あいち代表 近藤洋子

FAX 052-801-5794

kamishibaiaichi@yahoo.co.jp



紙芝居文化の会 あいち

第21号
2022.1



紙芝居文化の会とは

- ・紙芝居を愛する人
- ・紙芝居に興味のある人
- ・紙芝居を演じたい人
- ・さまざまな思いの人、海外の人とも出会い、交流する場です。

(2001年創立 事務局東京都三鷹市)

★若い紙芝居の仲間の紹介

☆卒論執筆中です

私が紙芝居に興味を持ったのは、保育園におけるアルバイトがきっかけです。保育園の先生方が絵本を読み聞かせたり、紙芝居を演じたりする様子を見て、この二つはどこが違うのだろう?と疑問に思いました。私自身、実習やアルバイトでは、両者の違いを理解しないまま同じ扱いをしてしまっていたため、保育士として働く上でも、紙芝居の特性や演じ方・絵本との違いをきちんと理解しておきたいと感じました。



そこで、紙芝居に関するテーマで卒業論文を書くことを決め、紙芝居文化の会あいちの活動に参加させていただくことになりました。

紙芝居はうすに参加し、会員の皆さんの実演を見たり、作品に対する意見をお聞きしたりする中で、「こんな演じ方ができるんだ」「そんな風に作品を捉えられるんだ」と、新たに学ぶことが本当に多く、紙芝居に対する考え方や認識が広がりました。

また、人との繋がりが希薄になりつつある今だからこそ、生の声で紙芝居を演じ合い、共有し合い、学び合うことのできる紙芝居はうすの存在意義を強く感じています。



私は、今年の4月から保育士として働き始めます。より良い演じ方でより良い作品を子どもたちに伝えられるよう、紙芝居文化の会での学びをさらに深めていきたいと考えています。

☆小冊子を使って

長久手の小学校6校の図書ボランティアが集まっての交流会がありました。

コロナ禍で、着席での読み聞かせしかできなくなったりという話が出ました。

そんな中、紙芝居舞台と黒布を使って行っていること。

おすすめ紙芝居リストとこども向けの演じかたの折り畳み本になる紙をプリントして、配布しました。

また、「紙芝居百科」も、参考本として紹介しました。



★世界 KAMISHIBAI の日

☆日進市立図書館 12月7日(火) 10時~16時

参加者(延べ人数)

子ども146人 大人152人

ずっととずっと紙芝居を演じ続けるリレー方式

25タイトル 57回

雨の当日、図書館にぶらっと

立ち寄ったよ、という親子連れが入れ替わり立ち替わり。

おはなしの部屋で一日中ほんわかした空気が流れました。

紙芝居をたっぷり楽しんで嬉しい記念日になりました。



☆犬山図書館 12月4日(土)

午前11時~11時30分 子ども1人・大人8人

午後1時30分~2時 子ども6人・大人3人

12月7日の世界KAMISHIBAIの日に先駆け、犬山図書館子ども読書空間「ブックキャンプ」で紙芝居をしました。午前は読書空間の愛称が決まる式典があり、参加者は大人の方がほとんど。午後は親子さん。

大人も子供も紙芝居の楽しさを共有しました。

☆カフェわたぼうし 12月9日(木)

名古屋市昭和区「カフェわたぼうし」のフリースペースでときどき紙芝居の勉強会をやっています。

世界KAMISHIBAIの日に合わせ、勉強会の後で開催し楽しみました。



☆桑名市 12月7日(火)

12月7日 世界KAMISHIBAIの日の活動

小学校読み聞かせ2年生23名 『あひるのおうさま』

3年生28名 『まねきねこのたま』

子供たちに紙芝居は日本で出来た文化である事。

戦争中の残念な歴史、でも今は日本・世界の人に平和を祈り楽しいお話を届けている事を伝えました。

幼稚園クリスマス会 年中組『サンタ サンタ サンタ』

年長組『みつごのこぶたのクリスマス』

☆名東図書館 12月4日(土)

「名東かみしばいまつり」を開催しました!

「ぼくのあうち、どこだっけ~!!?」

小さな子どもの可愛らしい声が会場に響きます。紙芝居『ぼくのあうちは?』(中川ひろたか / 脚本 童心社)を大勢の前で読んでくれたのは、なんと3歳の女の子。大人顔負けの堂々とした読みっぷりに、皆すっかり心を奪われ聞きました。これは12月4日に名東図書館で初めて開催された「名東かみしばいまつり」の一場面。

この行事は図書館のボランティアグループ・たのしいかみしばいの会を中心に行なわれます。

①メンバーによる読み聞かせ、②子どもによる紙芝居の実演、③子どもたちからリクエストされた紙芝居の読み聞かせの3本立てで行われました。



特に人気があったのは、②子どもによる紙芝居の実演です。希望する子どもが次々に手をあげ、大いに盛り上がりいました。あらかじめ子どもが読みやすいように短い紙芝居(8場面~12場面)を用意していましたが、16場面の紙芝居をどうしても読みたい子もあり、子どもの持つチャレンジ精神に改めて感心させられました。

(その子は20分近くかけて一生懸命読んでくれました!)本当に、あっという間の楽しい2時間でした。

☆おうちで世界KAMISHIBAIの日

今日は、この秋冬に演じた紙芝居をまとめてみました。全部で14タイトル。

世界KAMISHIBAIの日が嬉しくて、コロナ禍でも沢山の演じられる場所と人が居てくれて。

この所お仕事のお休みはどこかの園、小学、中学校で演じては楽しんでいました。沢山の紙芝居と出会って学んで、演じて来年の12月7日に向けて張り切る私です。世界中で紙芝居と平和が広がります様に。



今年こそ、多くの方とふれあえる世界KAMISHIBAIの日になりますように!

小さい場での紙芝居を少しずつ広げていきましょう。